

airweave presents

Le Grand Gala

ル・グラン・ガラ 2023

～マチュー・ガニオとドロテ・ジルベールからの贈りもの～

豪華絢爛な、美の饗宴！
バレエの殿堂、パリ・オペラ座バレエ
トップダンサーたちによる特別公演

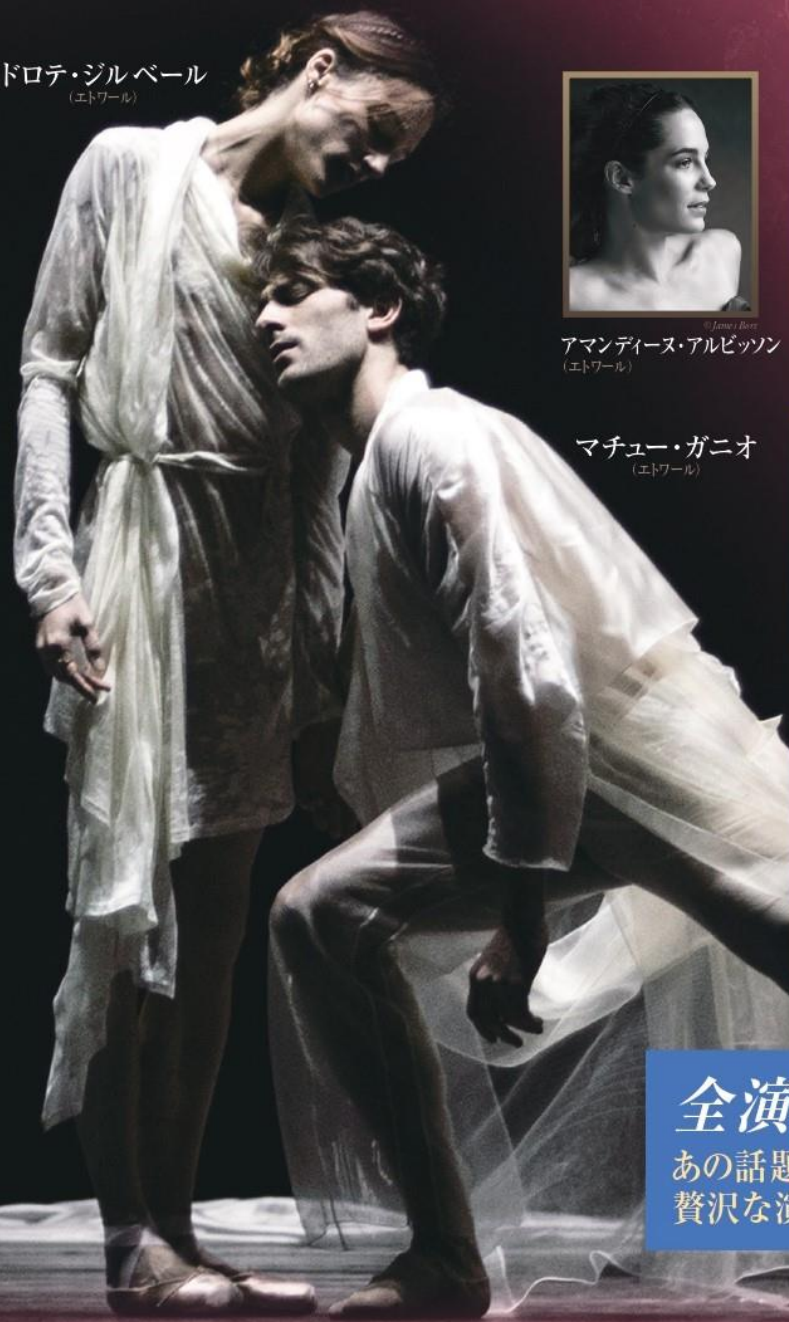
airweave presents

Le Grand Gala

ル・グラン・ガラ 2023

マチュー・ガニオとドロテ・ジルベールからの贈りもの

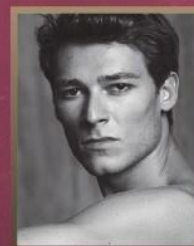
ドロテ・ジルベール
(エトワール)



アマンデイス・アルピソン
(エトワール)



レオノール・ボラック
(エトワール)



ユーゴ・マルシャン
(エトワール)



〈特別ゲスト〉
フリーデマン・フォーゲル
(リュウ・オクト・バレエ・オランピック)

マチュー・ガニオ
(エトワール)



リュドミラ・バリエロ
(エトワール)



オードリック・ベザール
(ブルミエ・ダンスール)



トマ・ドキール
(スジェ)



ビアンカ・スクグモア
(スジェ)



クララ・ムーサーニュ
(スジェ)



ニコラ・ディ・ヴィコ
(コリア)

全演目決定！

あの話題作が、早くも登場。
贅沢な演目の数々を最強キャストで一気に魅せる！

絢爛豪華、美の饗宴！
バレエの殿堂、パリ・オペラ座バレエ トップダンサーたちの夢の競演

2023年 7月31日(月)～8月3日(木) 東京文化会館 大ホール

Le grand gala 2023

この夏、必見！
世界の頂点に燦然と輝くパリ・オペラ座バレエのスターダンサーと旬の若手が集結！あの話題作が早くも日本初登場するなど、バレエ界の「今」を体感できる豪華ラインナップ実現！

パリとバレエとは切っても切れない深い関係にある。そもそもバレエの起源を探ると、踊る太陽王ルイ14世が創設した舞踊アカデミーにたどり着く。現在のパリ・オペラ座バレエの前身だ。20世紀初頭ニジンスキーとバレエ・リュスが未曾有のバレエ・ブームを巻き起こしたのもパリが発火点だった。ギエム、ルグリら現代バレエ界のスーパースターを生んだのもパリ・オペラ座だ。

パリ・オペラ座バレエはつねに世界のバレエの中心であり、新たな潮流を生み出す台風の目なのである。バレエの世界でもグローバル化が進み、国ごとの踊りのスタイルに違いがなくなってきた昨今、しかし、パリ・オペラ座バレエはその独自の“フランス・スタイル”をいまでも堅持している。その類いなきエレガンスは他のバレエ団ではけっして味わえないものだ。

現在、そのパリ・オペラ座の頂点で活躍する2人の**大エトワール、マチュー・ガニオとドロテ・ジルベール**が中心となってこの夏、日本で開催されるのが「ル・グラン・ガラ」だ。優美で哀愁に満ちた舞台姿で、ひととき美しい輝きを放つ貴公子ガニオと、高い音楽性と演劇性を併せ持ち、つねに白熱の舞台を生み出すジルベール。この2人とともに、マルシャン、アルビソン、ボラックら現在の輝けるエトワールから、**日本人の母を持ちオペラ座の未来を担う新鋭クララ・ムーサーニュまで、パリ・オペラ座の綺羅星のごとき才能**が揃う。特別ゲストとして、シュツットガルト・バレエからフリーデマン・フォーゲルが参加することにも注目だ。

披露される演目は、『ドン・キホーテ』『海賊』といったクラシックの定番から最先端のコンテンポラリーまで、ヴァラエティに富んでいる。『WEST SIDE STORY』のジェローム・ロビンズがショパンの調べに乗せて綴る愛の叙情詩『イン・ザ・ナイト』、6人のエトワールによる豪華競演はまず見逃せない。ハプスブルク帝国末期、ルドルフ皇太子による心中事件を題材にした『マイヤリング』の壮絶なパ・ド・ドウをジルベールとマルシャンが踊るのも話題だ。そして、レディー・ガガの音楽を用いてマッチの火を小道具に踊られる奇想天外な『悪夢』……AB両プログラムとも**パリ・オペラ座バレエの現在のエレガンスを味わい尽くせる公演**となるに違いない。

毎回、熱狂的な成功を収めている
ル・グラン・ガラ。
2023年は、さらに進化する!

—注目のキャスト—



世界中で絶大な人気を誇る

バレエ界のスーパースター

マチュー・ガニオ (エトワール)
Mathieu Ganio



パリ・オペラ座のトップに君臨する、
美しき女王

ドロテ・ジルベール (エトワール)
Dorothee Gilbert

～DANCERS～

他の追随を許さない
超人気エトワール、
マチュー・ガニオ
オペラ座の女王、
ドロテ・ジルベールと
パリ・オペラ座バレエ
のなかでも、
屈指の人気を誇る
最注目のダンサーたち
が勢ぞろい!



アマンディーヌ・アルピソン
(エトワール)



レオノール・ボラック
(エトワール)



ユーゴ・マルシャン
(エトワール)



(特別ゲスト)
フリーデマン・フォーゲル
(シュツットガルトバレエ プリンシパル)



リュドミラ・バリエワ
(エトワール)



オードリック・ベザール
(ブルミエ・ダンスール)



トマ・ドキール
(スジェ)



ビアンカ・スクダモア
(スジェ)



クララ・ムーサーニ
(スジェ)



ニコラ・ディ・ヴィコ
(コリフェ)

卓越した技術と表現力で世界中を虜にする、
スーパースター

フリーデマン・フォーゲル
(シュツットガルト・バレエ団 プリンシパル)
出演決定！

シュツットガルト生まれ。ローザンヌ国際バレエコンクール、ルクセンブルグ国際バレエコンクール金賞、ジャクソン国際バレエコンクールなど名だたる国際コンクールで入賞するなど、早くから頭角を現す。1998年、シュツットガルト・バレエ団に入団。2002年プリンシパルに昇進。2005年には、ドイツ国内最上位ダンサーとして、宮廷舞踊手の位を与えられる。

主なレパートリーは、ベジヤール、クランコ、バランシン、ロビンス、キリアン、ノイマイヤー、フォーサイスなど、名だたる振付家の作品に出演。またシェルカウイ、マクレガー、ゲッケなど気鋭の振付家の初演作品を踊っている。世界中のバレエ団への客演も多く、国際的トップ・ダンサーとしての確固たる地位を築いている。



FRIEDEMANN
VOGEL

FRIEDEMANN
VOGEL



Olegin
Ch. John Cranko
D. Friedemann Vogel
© Roman Novitzky

2020年入団後、毎年最年少で昇進を続ける、
飛躍著しい次世代のニュースター！

クララ・ムーセーニュ

(パリ・オペラ座バレエ スジェ)



パリ出身。2004年、日本人の母とフランス人の父の間に生まれる。2013年、9歳でパリ・オペラ座バレエ学校に入学し、13歳で『ダンス組曲』に主演するなど、同校で次々に最年少記録を塗り替える。2020年10月、コロナ禍の中行われた入団試験に臨み、首席でパリ・オペラ座バレエ団入団。同年優秀な若手ダンサーに贈られるジュヌ・エスポワール賞を受賞。2021年コリフェ、2022年スジェに昇進、同年ヌレエフ・コンクールにて審査員満場一致で1位、ヌレエフ特別賞を受賞。2023年カルポー賞を受賞し、猛スピードで飛躍を続ける新時代のニュースター。これまで『エチュード』『ラ・バヤデール』の影の王国のソリスト、『白鳥の湖』の四羽の白鳥をはじめ、多数のオペラ座公演に出演。2023年1月には、パリのモガドール劇場にて『Mon Premier Lac des Cygnes (My First Swan Lake)』の主演 オデット・オディール役でゲスト出演をし、好評を得る。その他のレパートリーに『海賊』『シルビア』『グラン・パ・クラシック』『コッペリア』『サタネラ』『ドン・キホーテ』『パリの炎』のパ・ド・ドゥを始め、『白の組曲』より シガレットとセレナーデ、『ラ・フィーユ・マル・ガルデ』のリーズ、『ライモンダ』よりヘンリエット、『くるみ割り人形』より金平糖の精、『瀕死の白鳥』『眠れる森の美女』よりオーロラ姫など。フランス・バレエの伝統を受け継ぐ正統派ダンサーとして、益々の活躍が期待される。



Clara
Mousseigne



Photo Gallery



〈フリーデマン・フォーゲル〉卓越した演技力で世界を虜にするスーパースター



〈ユーゴ・マルシャン〉美しくダイナミックな技術と存在感で魅了



〈マチュー・ガニオ〉世界中から愛される唯一無二のダンスール・ノーブル



〈ドロテ・ジルベール〉オペラ座トップに君臨する美しき女王



世界中で絶大な人気を誇るバレエ界のスーパースター

マチュー・ガニオ (パリオペラ座 エトワール)

Mathieu Ganio



1984年マルセイユ生まれ。1992年マルセイユ国立バレエ学校、1999年パリ・オペラ座バレエ学校入学。2001年17歳で、パリ・オペラ座バレエに入団。2004年5月20日ヌレエフ版『ドン・キホーテ』終演後、スジェから飛び級でエトワールに任命される。飛び級でのエトワール昇格は母ドミニク・カルフーニ、マヌエル・ルグリ、ローラン・イレール以来、至上4人目という快挙。ヌレエフ版『眠れる森の美女』『白鳥の湖』『ロミオとジュリエット』『眠れる森の美女』『くるみ割り人形』『シンデレラ』、ラコット版『ラ・シルフィード』『パキータ』、リファール振付『白の組曲』、ランダー振付『エチュード』、ベジャール振付『これが死か?』『火の鳥』、バランシン振付『ジュエルズ』エメラルド/ダイヤモンド、『アポロ』『アゴン』、プティ振付『プルースト—または失われた時を求めて』、ロビンス振付『ダンセズ・アット・ア・ギャザリング』、ノイマイヤー振付『椿姫』『マーラー交響曲第3番』、クランコ振付『オネーギン』、マルティネス振付『天井桟敷の人々』、アシュトン振付『ラ・フィユ・マル・ガルデ』、マクミラン振付『マノン』、など、数多くの作品に主演。2005年、ブノワ賞受賞。20世紀を代表する世界的ダンサー、ドミニク・カルフーニとデニス・ガニオを両親に持つサラブレッドである彼だが、その恵まれた容姿だけでなく、端正な技術、役柄への真摯な追求心で絶大な人気を得ている。

パリ・オペラ座のトップに君臨する、美しき女王

ドロテ・ジルベール (パリオペラ座 エトワール)

Dorothee Gilbert



1983年、トゥールーズ生まれ。1990年よりトゥールーズのコンセルヴァトワールで学び、1995年パリ・オペラ座バレエ学校に入学。2000年パリ・オペラ座バレエに入団。2007年11月19日『くるみ割り人形』終演後にエトワールに任命される。ヌレエフ版『ラ・バヤデル』『ドン・キホーテ』『白鳥の湖』『ライモンダ』『ロミオとジュリエット』、ラコット版『パキータ』などクラシック作品の他、プティ振付『プルースト—失われた時を求めて』、アシュトン振付『ラ・フィユ・マル・ガルデ』、クランコ振付『オネーギン』、マクミラン振付『マノン』などで主演を務める。その他、バランシン振付『ジュエルズ』『アゴン』、キリアン振付『ヌアージュ』『ベラ・フィギュラ』、ノイマイヤー振付『大地の歌』、ロビンス振付『コンサート』、マクレガー振付『感覚の解剖学』など、レパートリーも幅広い。

バレエ界以外での活動にも精力的で、2017年には夫ジェームス・ボルトが監督したカトリーヌ・ドヌーヴも出演する短編映画「Naissance d'une étoile / Rise of a star(エトワールの誕生)」で主演女優として映画デビュー。作品は“アカデミー賞短編映画カテゴリー”の10作にノミネート。

バレリーナ秘伝のメソッドをわかりやすくまとめたDVD『パリ・バレエ・フィット』(ユニバーサル)を監修するほか、ピアジェのアンバサダーを務めるなど、ファッション業界でも注目を集める存在。芸術文化勲章シュヴァリエを受賞。



アマンディーヌ・アルビツソン

(パリ・オペラ座バレエ エトワール)

圧巻の演技力と際立つ表現力。フランス・バレエの美を継承する、個性派ダンサー

マルセイユ生まれ。1999年パリ・オペラ座バレエ学校入学。バランシン『ディヴェルティメント』、ベジヤール『ドン・ジョヴァンニ』でソリスト役を踊るほか、在学中からバレエ団の『くるみ割り人形』『白鳥の湖』『ラ・バヤデール』などにも出演。2006年、17歳でパリ・オペラ座バレエに入団。2009年コリフェ、2010年スジェに昇格。2014年1月にプルミエール・ダンスーズに昇格、その2ヵ月後の2014年3月5日、クランコ『オネーギン』のタチアナ役を踊り、エトワールに任命された。

ラコット版『ラ・シルフィード』、『パキータ』のタイトル・ロール、ヌレエフ版『眠れる森の美女』のオーロラ姫などの古典作品のほか、ミルピエ『ダフニスとクロエ』のクロエ、プティ『アルルの女』のヴィヴェット、『ノートル・ダム・ド・パリ』のエスメラルダ、ニジンスキー『牧神の午後』のニンフ、バランシン『アポロ』、フォーサイス『イン・ザ・ミドル・サムホワット・エレヴェイテッド』、リファール『白の組曲』、ランダー振付『エチュード』などで主要な役を踊っている。2009年カルポー賞、2013年AROP賞受賞。フランス・バレエの美を継承するエトワールとして、大きな期待が寄せられている。



レオノール・ボラック

(パリ・オペラ座バレエ エトワール)

可憐な容姿と強靭なテクニックを併せもつプリンセス

パリ生まれ。2005年パリ・オペラ座バレエ学校に入学。2008年パリ・オペラ座バレエ入団。2014年AROP賞受賞。2016年12月31日の『白鳥の湖』終演後、エトワールに任命された。

バレリーナとして理想的ともいえる愛らしい容姿と抜群の存在感を持つ彼女は、ヌレエフ版『くるみ割り人形』のクララ、『ロミオとジュリエット』のジュリエット、ラコット版『パキータ』のタイトル・ロール、『ドン・キホーテ』のキトリ、バランシン『ジュエルズ』のルビー／エメラルドなど、主要な役を務めている。また現代的で強靭なテクニックも魅力のひとつで、バウシュ『春の祭典』、フォーサイス『イン・ザ・ミドル・サムホワット・エレヴェイテッド』、ノイマイヤー『大地の歌』などでも主要な役を務める。2016年5月に上演されたヌレエフ版『ロミオとジュリエット』では、「理想的な外見と、情熱的なヒロインたちが持つ偽りの脆さを備え、圧倒的な存在感と豊かな表情のジュリエット」(ダンスマガジン2016年6月号)と評された。オペラ座で、いま最も輝くプリンセスである。



ユーゴ・マルシャン

(パリ・オペラ座バレエ エトワール)

ダイナミックな跳躍と華やかな存在感で観客を魅了

9歳でバレエを始める。2007年、13歳でパリ・オペラ座バレエ学校に入学し、17歳でパリ・オペラ座バレエに入団。2015年11月、プルミエール・ダンスーズに昇進。2017年3月3日、オペラ座日本公演『ラ・シルフィード』上演後、東京文化会館の舞台上でエトワールに任命された。

ヌレエフ『くるみ割り人形』のドロツセルマイヤー／王子役、マクミラン『マノン』のデ・グリュエ役、ヌレエフ『ラ・バヤデール』のソロール役などの古典作品から、マクレガー『感覚の解剖学』、フォーサイス『ヘルマン・シュメルマン』、ヴァルツ『ロミオとジュリエット』のロミオ役、ファン・マーネン『3つのグノシェンヌ』、クランコ『オネーギン』タイトル・ロールなど、幅広い作品に抜擢され、目覚ましい活躍を遂げている。14年ヴァルナ国際バレエコンクール銅賞、15年カルポー賞受賞。16年AROP賞受賞。17年ブノワ賞受賞。



リュドミラ・パリエロ

(パリ・オペラ座バレエ エトワール)

クラシックからコンテンポラリーまで縦横無尽に舞う！

チリのサンチャゴ・バレエ団でソリストを経て、2003年オペラ座バレエ団に入団。2008年にスジェ、2009年、プルミエール・ダンスーズに昇格。クラシックにおいてもコンテンポラリーにおいても、そのテクニックは高く評価され、エトワール任命も遠くないのではと囁かれていた。2012年の『ラ・バヤデール』公演にて、ガムザッティ役のダンサーの怪我が相次ぎ、3月22日、急遽出演した直後にエトワールに任命された。最先端の振付家たちの作品を得意とするが、その確かな技術としなやかな手足を駆使し、クラシック作品にも定評がある。主なレパートリーとしては、ケースマイケル、エック、ライトフット、ファン・マーネン、クリスタル・パイトなどのコンテンポラリー作品のほか、バランシン、アシュトン、クランコ、マクミラン、ノイマイヤー、ヌレエフ、プティなど古典、ロマンティック・バレエなど幅広い。



オドリック・ベザール

(パリ・オペラ座バレエ プルミエ・ダンスール)

ダイナミックな表現力で、幅広い役を完璧に演じこなす

1994年パリ・オペラ座バレエ学校へ入学。2000年、18歳でパリ・オペラ座バレエ入団。13年プルミエ・ダンスールに昇格。

ヌレエフ版『眠れる森の美女』のデジレ王子、『白鳥の湖』のジークフリード王子、ベジャール『春の祭典』『火の鳥』、プティ『狼』『プルーストー失われた時を求めて』のタイトルロールなどの主役や、『ドン・キホーテ』のエスパルダ、クランコ『オネーギン』のレンスキー、プティ『カルメン』のエスカミーリョ、『ノートル・ダム・ド・パリ』のフロロなど主要な役を、また現代作品では、マクレガー『感覚の解剖学』、エック『ベルナルダの家』、フォーサイス『イン・ザ・ミドル・サムホワット・エレヴェイテッド』『パ/パーツ』、ノイマイヤー『大地の歌』、ロビンス『ダンスズ・アット・ア・ギャザリング』などで主要な役を踊っている。08年カルポー賞を受賞。



トマ・ドキール

(パリ・オペラ座バレエ スジェ)

クラシック、コンテンポラリーを自在に踊りこなす、次代を担う最注目ダンサー！

ベルギー出身。8歳からバレエを始め、12歳でパリ・オペラ座バレエ学校入学。2015年、17歳でバレエ団入団。2017年、コリフェに昇進。2019年、スジェに昇進
コリフェ時代に、通常エトワールが演じる『白鳥の湖』ロッドバルト役に抜擢され、絶賛を博すなど入団当時から注目を浴びている。古典作品のほか、コンテンポラリー作品も柔軟に踊りこなす、これからの成長が楽しみな若手ダンサー。



ビアンカ・スクダモア

(パリ・オペラ座バレエ スジェ)

可憐な容姿と目を見張る圧倒的テクニック！

2000年 オーストリア生まれ
2015年 ローザンヌ国際バレエコンクールバレエコンクールフィナリスト
2015年 YAGPフィナリス、シニア部門3位
スカラシップを取得し、パリ・オペラ座バレエ学校入学
2017年9月 パリ・オペラ座入団
2018年3月 コリフェに昇進
2018年11月 スジェに昇進
2018年 ヴァルナ国際バレエコンクール入賞 カルポー賞受賞



ニコラ・ディ・ヴィコ

(パリ・オペラ座バレエ コリフェ)

長身を生かし、確かな技術と存在感が光る期待の若手

イタリア出身。2021年、パリ・オペラ座バレエ正式入団。すらりとした長身を生かし、確かな技術で個性を光らせる若手ダンサー。

～PROGRAM～

クラシックやモダンの名作から、新進気鋭の若手振付家によるコンテンポラリーダンスまで、幅広いレパートリーを難なく踊りこなすオペラ座ダンサーたちの真骨頂を魅せる豪華なガラ公演を予定しています。

【Aプログラム】

東京7/31(月)19:00・8/1(火)13:30・8/2(水)13:30／名古屋
※一部抜粋

『カルメン』振付：ローラン・プティ
音楽：ジョルジュ・ビゼー
リュドミラ・パリエロ オードリック・ベザール

『くるみ割り人形』振付：ジャン＝クリストフ・マイヨー
音楽：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
アマンディーヌ・アルビソン フリーデマン・フォーゲル

『海賊』振付：マリウス・プティパ
音楽：アドルフ・アダン
ビアンカ・スクダモア トマ・ドキール

『ドン・キホーテ』振付：マリウス・プティパ
音楽：レオン・ミンクス
クララ・ムーセーニュ ニコラ・ディ・ヴィコ

『イン・ザ・ナイト』振付：ジェローム・ロビンス
音楽：フレデリック・ショパン
リュドミラ・パリエロ マチュー・ガニオ
アマンディーヌ・アルビソン オードリック・ベザール
ドロテ・ジルベール ユーゴ・マルシャン
ピアノ：久山亮子

ほか

【Bプログラム】

東京8/2(水)18:30・8/3(木)18:30／大阪
※一部抜粋

『チャイコフスキー・パ・ド・ドウ』
振付：ジョージ・バランシン
音楽：ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー
レオノール・ボラック トマ・ドキール

『椿姫』
振付：ジョン・ノイマイヤー
音楽：フレデリック・ショパン
アマンディーヌ・アルビソン オードリック・ベザール

『マノン』より“寝室のパ・ド・ドウ”
振付：ケネス・マクミラン 音楽：ジュール・マスネ
リュドミラ・パリエロ フリーデマン・フォーゲル

『イン・ザ・ミドル・サムホワット・エレヴェイテッド』
振付：ウィリアム・フォーサイス 音楽：トム・ウィレムス
ビアンカ・スクダモア オードリック・ベザール

『うたかたの恋 マイヤーリング』
振付：ケネス・マクミラン
音楽：フランツ・リスト
ドロテ・ジルベール ユーゴ・マルシャン

ほか

公演概要

【日時】2023年7月31日(月)～8月3日(木)

【Aプログラム】7/31(月) 19:00開演 ・ 8/1(火) 13:30開演 ・ 8/2(水) 13:30開演

【Bプログラム】8/2(水) 18:30開演 ・ 8/3(木) 18:30開演

【会場】東京文化会館 大ホール

【チケット料金(税込)】**チケット発売中！！**

S席 ¥18,000 / A席 ¥16,000 / B席 ¥14,000 / C席 ¥11,000 / D席 ¥8,000 / E席 ¥5,000

プラチナシート(1階席最前列 特典付き) ¥22,000

※プラチナシート特典は、終演後に出演ダンサー全員との集合写真撮影付

【チケット販売】TBSチケット、チケットスペース 他

【お問合せ】チケットスペース：03-3234-9999 <https://www.ints.co.jp/legrandgala.html>

公式HP <https://le-grand-gala.com/>

主催・企画：TBS 企画協力：ベルチエ・アソシエイツ 特別協賛：株式会社エアウィーヴ

公式ウェブサイト：<https://le-grand-gala.com/>

ツイッター：@LeGrandGalaJP

本件のお問い合わせ：チケットスペース TEL：03-3234-9999